

(別表第4)

第三セクター情報公開資料

1 第三セクター名称等											
名称		株式会社 黄桜の里				電話番号		0184-69-2611			
所在地		秋田県由利本荘市東由利老方字畑田28番地				FAX番号		0184-69-2839			
設立年月日		平成7年5月25日				HPアドレス		http://www.ont.ne.jp/~k-yurari/			
2 資本金		96,000千円		市出資金		90,000千円		市出資割合		93.8 %	
3 事業内容		1. 道の駅「東由利」関連施設の管理運営(東由利温泉保養施設黄桜温泉「湯楽里」(温泉、売店)、東由利産地形成促進施設(レストラン)、ファーストフード店等) 2. 道の駅「東由利」に係る受託業務(駐車場、トイレ、休憩施設等の維持管理) 3. 上記に関連する一切の事業									
4 財務状況(令和4年3月31日現在)											
貸借対照表から	項 目	金 額 (千円) 税抜			損益計算書から	項 目	金 額 (千円) 税抜				
		前々年度	前年度	本年度			前々年度	前年度	本年度		
	総資産	27,268	46,807	41,015		総収入(売上高+営業外収益+特別利益)	19,640	138,869	149,332		
	負債	13,070	42,247	38,697		(内市からの補助金・指定管理料)	28,127	27,972	39,861		
	(有利子負債)	0	0	0		経常利益	△ 13,295	△ 9,454	△ 2,057		
	純資産	14,198	4,560	2,319		当期純利益	△ 13,479	△ 9,639	△ 2,241		
	利益剰余金	△ 81,801	△ 91,440	△ 93,681		減価償却前当期利益	△ 12,572	△ 7,979	△ 2,080		
5 役職員の状況(令和4年3月31日現在)											
取締役数(うち市出向者・退職者)				6 (退 0)		正職員数(うち市出向者・退職者)				18 (退 0)	
6 第三セクターへの関与の状況(単位:千円 税込み)											
(1) 公的支援(令和4年3月31日現在)											
項 目		前々年度	前年度	本年度	備考(目的、内容、算出根拠等)						
①補助金(助成金)		0	98	9,200	指定管理施設コロナ対策交付金						
②利子補給		0	0	0							
③税の減免額		0	0	0							
④その他		0	0	0							
小 計		0	98	9,200							
⑤損失補償契約に伴う金利軽減額		0	0	0							
⑥出資金、低金利貸付等に伴う機会費用		0	0	0							
小 計		0	0	0							
合 計		0	98	9,200							
【参考】指定管理料(税込)		30,661	30,661	30,661	道の駅周辺施設						
(2) その他(令和4年3月31日現在)											
項 目		前々年度	前年度	本年度							
①損失保証契約に係る債務残高		0	0	0							
②貸付金残高		0	0	0							
③出資金(増資等)		0	0	0							
合 計		0	0	0							
7 添付資料 貸借対照表、損益計算書											

※本資料は、第28期決算報告書(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)に基づいて作成したものである。

株式会社 黄桜の里 事業報告書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

令和3年度 第28期

【全体の実績と当期純損益について】

コロナ禍2年目となった令和3年度は、感染者数の増減に売上が大きく左右された1年となりました。今期は開業以来最小である145,000千円の売上予算で臨みましたが、感染拡大の影響は大きく97,182千円の売上実績で令和3年度を終えております。前年度対比では2,315千円の売上増となっておりますが、コロナ禍前の令和元年度対比では62,459千円の売上減少となっており、依然回復には至っておりません。そのため黒字化にすることはできず、昨年に続き赤字決算となり△2,241千円の純損失を計上しております。前年度の純損失額9,638千円に対し7,397千円の赤字圧縮となっておりますが、これは市からのコロナ関連助成金が指定管理施設に入金されたことを要因としております。

しかし、売上回復に至らなかった令和3年度も前年度に続き「利益率の改善」と「固定費の削減」に注力し、損益分岐点の引き下げを行って参りました。今年度は最終原価率を35.1%とし、限界利益率を前年度より0.5%増の64.9%としました。コロナ禍以前の過去3期平均利益率の61.1%と比較すると、3.8%利益率が改善されております。また、固定費削減の取り組みにおきましては、28,115千円を削減した前年度を土台として令和3年度に臨んでおります。しかし、燃料費の高騰により水道光熱費が前年比5,514千円増の26,044千円となり、館内の修繕費が1,404千円増の2,642千円となるなど、経費増額は免れないものとなりました。それでも3月期の販管費合計は、前年比2,472千円の増に留めております。

売上の減少と経費高騰により目に見える結果を残すことができませんでしたが、今後を見据えお客様へ向けてのコロナ対策強化と、同じ目的へ向かうために社内へ向けての発信を強化して参りました。お客様へ向けてはコロナ対策の安全安心の「見える化」を行うために、「秋田県コロナ防止対策飲食店」の認証を取得し、非接触化を進めるためキャッシュレス決済を拡充し、電子マネー決済も導入致しました。社内では向かうべき目標を全社員で共有するための「全社会議」を社長出席のもとで行い、現況と今後について確認し合い同じ目的に進む意識を共有致しました。また、社内のコミュニケーション力を向上させることをテーマとした研修会を外部講師を招き実施しております。自分たちのスキルを上げることが、コロナ禍の中お客様に再来店いただくための最良の策と考え今後も継続して参ります。

2年目のコロナ禍での決算を終え、ますます厳しい現状が待ち受けておりますが今期の取り組みを土台として更に改善を行い、令和4年度に臨んで参ります。

【 経営状況について 】

令和3年度を赤字計上で終え、赤字決算は5期連続となり厳しい状況が続いております。財務の健全性を示す指標である自己資本比率は3%を切り、業務を立て直せなければ債務超過に陥る恐れが出ています。そのため令和2年度より損益分岐点を引き下げるため、利益率と固定費の抜本的な改善に取り組んでおります。しかしコロナの影響は計り知れなく感染状況が売上を大きく左右し、宴会予約は未だに回復の兆しがありません。

また、ロシアのウクライナ侵攻により12月から電気料金に影響が出始めました。原油・石炭・LNG(液化天然ガス)の価格変動により毎月単価が変動する「燃料調整単価」が急上昇し始め、令和4年度第1四半期までには上限額に達する見込みです。そのため電気料金が高騰し、1月以降年度末までの3ヶ月間で前年同期比802千円の増となり、1ヶ月平均267千円の増となるなど経営を圧迫してきております。また、弊社契約の新電力会社より令和4年度7月からの基本料金と電力量料金の大幅な値上げを求められており、状況は益々悪化する見込みです。このような状況下、一時的に月曜日に限定し臨時休館日を増設致しました。利用者様の利便性を考えれば苦渋の策ですが、これにより雇用調整助成金の申請と燃料費の減額を行っております。しかしこれはあくまでも緊急的な策であり、抜本的な解決策にはなりません。今後は新年度の事業計画に沿い増販策を進めて参ります。

由利本荘市より3月に「第3セクターの見直しに関する指針」と「指定管理制度導入・運用に関するガイドライン」が公表されました。様々な見直しが明示されており、この指針に沿い令和5年度の指定管理者公募に臨むこととなります。厳しい状況下での公募申請となりますが、従業員全員で現況を共有し一丸となって取り組んで参ります。

第28期(令和3年 4月 1日 ～ 令和4年 3月31日まで)

決算 承認の件

貸 借 対 照 表
(令和4年 3月31日現在)

(単位:円)税別

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
A 流 動 資 産	30,425,576	流 動 負 債 ①	8,240,423
現金・預金	24,069,490	買 掛 金	1,386,414
売 掛 金	431,263	未払法人税等	184,000
たな卸資産	4,289,262	未払費用	5,569,554
その他流動資産	1,635,561	仮 受 金	7,150
B 固 定 資 産	10,313,886	預 り 金	120,405
有形固定資産	73,638	未払消費税	853,400
建 物	7	金 券	119,500
車輛・運搬具	3	固 定 負 債 ②	30,456,200
工具・器具・備品	73,618	D 負債合計 ①+②	38,696,623
建物付属設備	10	資 本 金 ③	96,000,000
一括償却資産	0	資本剰余金 ④	0
無形固定資産	76,440	利益剰余金 ⑤	-93,681,161
投 資 等	10,163,808	繰越利益剰余金	-93,681,161
出 資 金	115,000	E 純資産合計 ③～⑤	2,318,839
保険積立金	9,899,230		
保 証 金	0		
長期前払費用	149,578		
C 繰 延 資 産	276,000		
A+B+C 資産合計	41,015,462	D+E 負債及び純資産合計	41,015,462

損 益 計 算 書

(令和3年 4月 1日 ～ 令和4年 3月31日まで)

(単位:円)税別

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
売 上 高	97,182,420	売上原価	34,121,400
計 ①	97,182,420	計 ②	34,121,400
①－②		A 売上総利益	63,061,020
		人件費	60,950,802
		法定福利費・厚生費	8,428,818
		水道光熱費	26,044,091
		修繕費	2,642,421
		備品消耗品費	3,238,359
		その他販売費及び一般管理費	15,610,018
		計 ③	116,914,509
A－③		B 営業利益(損失)	-53,853,489
営業外収益	52,149,127	営業外費用	352,823
(内、委託料収入)	(29,608,073)		
(内、市指定管理施設等支援金 R2年度分)	(9,900,000)		
(内、市指定管理施設等支援金)	(5,300,000)		
(内、市温泉等指定管理施設事業継続対策支援金)	(3,900,000)		
(内、事業復活支援金・その他コロナ関連助成金等)	(2,789,714)		
(内、その他雑収入等)	(651,340)		
計 ④	52,149,127	計 ⑤	352,823
B+④－⑤		C 経常利益(損失)	-2,057,185
特別利益	74	特別損失	0
計 ⑥	74	計 ⑦	0
C+⑥－⑦		D 税引前当期純利益(損失)	-2,057,111
		E 法人税及び住民税	184,072
D－E		F 当期純利益 (損失)	-2,241,183